

# ◆V章 校内支援体制の整備◆

## 1 特別支援教育コーディネーターと校内支援体制

### (1) 特別支援教育コーディネーターの役割

小中学校の特別支援教育コーディネーターは次の①～⑥のような役割を担っている。

#### ① 校内における特別な教育的支援を必要とする児童生徒の把握

##### ア 児童生徒にかかわる情報の収集

小中学校のコーディネーターは年度当初、学級担任に対し特別な教育的支援が必要と考えられる児童生徒について実態の把握することを依頼する。例えば、各学級において気になる児童生徒の現状について把握し、表1のような一覧表に記入してもらう。作成したものは年間を通じて随時、加除修正できるように保管する。現状や支援の経過を記入する欄には教科・専科担任や養護教諭など学級担任以外にその児童生徒にかかわる教師も自由に書き込めるようにし、校内で共有できるようにしておく都合がよい。

特別な教育的支援を必要とする児童生徒を見過ごさないためには、スクリーニングチェックリストを活用することも有効である。また必要に応じて、特別支援学校の教育相談担当者に児童生徒の現状把握について協力を依頼する。

表1 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の一覧表の例

| 学年・学級 | 氏名（性別）  | 現 状                                        | 支援の経過                                                 | 備 考                            |
|-------|---------|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 3年1組  | 〇〇〇〇(男) | 集中する時間は短く、離席が多い。整理整頓は苦手。                   | ・4/20 担任と相談する中で、心配した母親が〇〇病院心療内科を予約。                   |                                |
| 3年1組  | 〇〇〇〇(女) | 選択性かん黙。仲のよい友だちには笑ったりうなずいたりする。家庭では活発に話している。 | ・無理に話させようとせず、意思疎通は〇〇子さんを通して行う。<br>・今年度になり表情が明るくなってきた。 | H〇年〇月から、母親とスクールカウンセラーとの相談を継続中。 |

##### イ 職員会議での情報交換

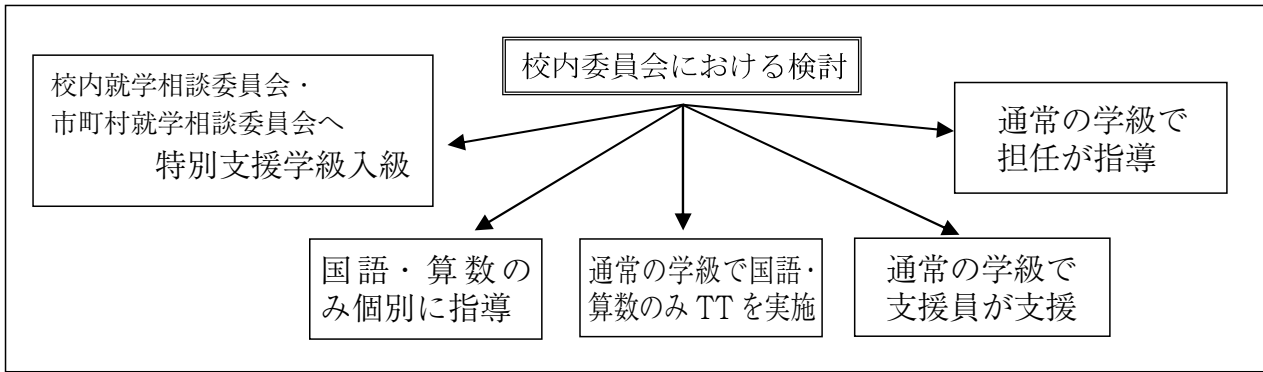
できる限り、職員会議や学年会において児童生徒について情報交換する時間を毎回確保する。学級担任から配慮を要する児童生徒の姿について話してもらったり、職員間で情報交換や意見交換をしたりする。コーディネーターはこれらの情報の中から、支援会議で取り上げた方がよいと考えられる児童生徒をリストアップするとよい。

#### ② 校内委員会の推進

小中学校の校内委員会は、学習・行動上で特別な教育的支援を必要とする児童生徒について、学級担任とともに実態把握を行い、「個別の指導計画」を作成したり専門機関に相談を依頼したりしながら支援の在り方について検討する組織である。また支援の必要性、緊急度などにより、支援の場所・人・形態などについても検討し、児童生徒への支援体制作りを行う。

スクリーニングチェックリスト → 『自律教育シリーズ第2集 みんなで支援みんなが笑顔  
こんなときどうする?』（自律教育委員会、2005）P.70

### 児童への支援体制作りの例



コーディネーターは年度当初に校内委員会の年間運営計画を立案する。校内委員会が行う年間の活動には次のような内容が考えられる。

#### 校内委員会の年間運営計画（小学校の例）

（年間）

- ・ 配慮を要する児童についての情報交換（職員会議）
- ・ 該当児童についての支援会議及び支援体制作り
- ・ コーディネーターによる学級担任や保護者との教育相談
- ・ 児童理解、「発達障害」などにかかわる職員研修会、保護者向け研修会の実施

（4月）

- ・ 学習・集団行動上で特別な支援を必要とする児童についての情報収集と一覧表の作成
- ・ 特別支援教育の取り組みについて職員や保護者への説明

（5月）

- ・ 該当児童の「個別の指導計画」の作成
- ・ 授業参観や情報収集。個別検査の実施。必要に応じて、専門機関への相談依頼
- ・ スクールカウンセラーと職員との顔合わせや連携
- ・ 巡回教育相談や専門家チームへの協力要請

（5月～）

- ・ 「個別の指導計画」による実践

（8月）

- ・ 「個別の指導計画」の評価・修正

（10～12月）

- ・ 保育所・幼稚園から特別な支援を必要とする来入児についての情報収集

（12月）

- ・ 「個別の指導計画」の評価・修正

（2月）

- ・ 年間のまとめと次年度の方向の検討
- ・ 中学校への情報提供（保護者の了解）

（3月）

- ・ 特別な教育的支援を必要とする児童の一覧表について修正

### ③ 保護者への啓発と教育相談

児童生徒の支援をしていくためには、保護者の特別支援教育に対する理解が不可欠である。授業参観やPTA総会のような多数の保護者が集まる場で、特別支援教育、校内委員会やコーディネーターについて紹介し、啓発を図りたい。コーディネーターは随時、保護者からの教育相談を受け付けていること、必要に応じて専門家を紹介するための窓口の役

割を担っていることについても伝える（保護者向け資料 P.128 参照）。保護者は学級担任に相談できないことでもコーディネーターならば相談したり相談機関の紹介を依頼したりすることもある。

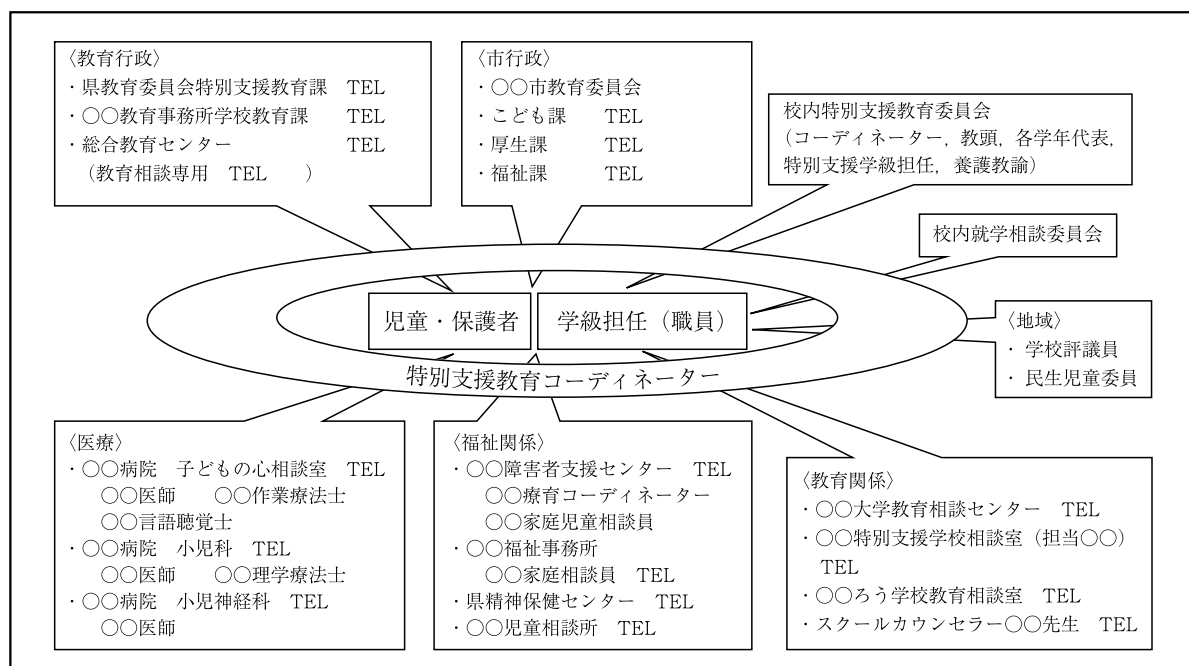
#### ④ 校内就学相談委員会や生徒指導委員会などとの連携

校内の組織として校内就学相談委員会や生徒指導委員会などを設置している場合、コーディネーターがそれらの組織と連携することも大切である。組織ごとに持っている児童生徒の情報を総合して支援に生かすようにする。そのためには、コーディネーターが校内就学相談委員会委員長や生徒指導主事などと常に連絡を取り合ったり、就学相談委員会や生徒指導委員会に出席したりすることも有効である。

#### ⑤ 関係機関との連携

特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援に当たっては、医療・福祉・地域の特別支援学校などの専門機関と連携することが不可欠である。関係機関との連携をしながら、様々な側面からの取り組みを示した「個別の教育支援計画」を作成したい。そのためには日頃から連携できる機関についての情報を収集し、「支援マップ」を作成しておくことよい。

支援マップ（例）



#### ⑥ 校内職員研修の推進

特別支援教育の理解を深めるため、コーディネーターは特別支援教育に関する職員研修の推進を行う。放課後に特設の時間を設ける、職員会議の中で実施するなど、学校の実状に応じて工夫して実施したい。

##### 小中学校における職員研修の実施内容（例）

- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| （１学期）・特別支援教育とは | （２学期）・個別の指導計画の評価と修正 |
| ・個別の指導計画について   | ・児童生徒への共感的理解        |
| ・発達障害とは        | ・通常の学級での支援について      |
| （夏休み）心理検査の実際   | （冬休み）ソーシャルスキルトレーニング |
|                | （３学期）事例研究           |

保護者の皆さんへ

〇〇小学校

## 「校内委員会」と「特別支援教育コーディネーター」について

皆さんはどちらのタイプですか？

行ったことのない場所へ行かなくてははいけません。

皆さんは、次のどちらの説明が分かりやすいでしょうか。

- ① 進む道順通りに、目印や進行方向を説明してもらう。
- ② 地図を広げ、現在の場所と目的地を示してもらう。

人によって、①と②で分かりやすさが違います。これを学習の仕方に当てはめると、「学び方」の違いと言えます。優劣を示すものではありません。

「校内委員会」とは、  
このような子どもたちの「学び方」の違いに合わせた学習のあり方を検討する委員会です。各学年職員の代表がメンバーとなり、学習や集団行動上で悩みを抱えている児童について学級担任の先生とともに、その子の「学び方」に合わせた学習や支援の方法についてチームで考えます。

具体的には、次のようなことを行います。

- (1) 学習や集団行動上で特別な教育的支援を要する児童について、複数の教師が協力して支援を行ったり、学級担任はもとより、複数の教師の目で児童理解につとめたりします。
- (2) 家庭とも連絡を取りながら、学級での適切な学習や支援の方法を考えます。必要に応じて、学級以外の場における学習や支援についても検討します。
- (3) 「個別の指導計画」を作成し、適切な対応をします。専門機関（医療や福祉機関など）に相談した方がよいかどうかとも検討し、保護者に提案します。
- (4) 保育所・幼稚園・中学校とも連携しながら、入学前、入学後も支援できるようにします。

「特別支援教育コーディネーター」とは、  
「校内委員会」を開いたり、保護者や校内の教職員、あるいは関係機関の連絡窓口となったりする係です。また、保護者からの教育相談にも応じます。

もし、お子さんが学習や集団行動上などのことで困っていたら

学級担任か特別支援教育コーディネーター（本年度は、〇〇〇〇が担当）に相談してください。保護者と個別の教育相談を行ったり、校内委員会を開いたりして、お子さんにとって適切な学習や支援の方法について考えます。必要に応じてスクールカウンセラーや外部専門機関の窓口にもなります。相談についての秘密は守られます。

（特別支援教育コーディネーター 〇〇〇〇

学校電話）

## (2) 校内支援体制の実際

### ① 校内委員会

#### ア 校内委員会の目的

校内委員会は、学習・集団行動上で特別な教育的支援を必要とする児童生徒について、学級担任とともに実態把握を行い、「個別の指導計画」を作成したり専門機関に相談を依頼したりしながら支援の在り方について検討することを目的とする組織である。

#### イ 校内委員会の組織

##### ○校内委員会の構成メンバー（例）

- 特別支援教育コーディネーター      ○校長      ○教頭      ○教務主任
- 養護教諭      ○学年主任      ○当該児童生徒の学級担任      ○特別支援学級担任
- その他校内外の関係者

#### ○小委員会を設ける場合

当該児童生徒の支援の在り方について頻繁に検討したり、緊急な対応が必要だったりする場合は小委員会を設ける場合もある。

構成メンバー（例）…コーディネーター・学級担任・特別支援学級担任・養護教諭

#### ウ 校内委員会の運営

校内委員会では次のようなことを行う。

##### a 情報収集と「個別の指導計画」の作成

- ・当該児童生徒の様子や支援の現状について情報収集をし、実態を把握する。
- ・実態把握から個別の指導計画作成・検討・実施・評価・修正を学級担任とともに行う。

##### b 「支援会議」の実施

- ・児童生徒の学級での実態を基にして、その児童生徒について理解し合う校内での会議を行う。
- ・当該児童に関係する校外の支援者を含め、関係者が集まって児童生徒の支援の在り方やそれぞれの役割などについて検討する会議を行う。

##### c 関係機関との連携

- ・校内での話し合いを基にして、必要に応じて関係機関と連携する。
- ・コーディネーターを窓口として保護者に専門機関を紹介したり専門機関からの情報を支援会議に生かしたりする。
- ・必要に応じて関係者の支援会議への参加を依頼する。

### ② 支援会議の実際 ～ある小学校の事例～

日頃、学級担任が教室で気になっている児童生徒について、その様子を報告してもらい、その子をどう理解していくかについて考え合う校内での支援会議を適時行うことも校内委員会の重要な役割である。関係者が集まって支援の方向を話し合う支援会議よりも、学級担任が悩みを気軽に話したり児童生徒の理解を深めたりすることに重点を置いた会議である。

支援会議の後は学級担任が教室で配慮しながら支援をするが、校内外の関係者を集めた支援会議へとつなげていくこともある。

小学校2年生女子（アキさん）についての支援会議の一例を紹介する。

## ア 支援会議のきっかけ

2学期最初の校内委員会にて、2学年主任から「2年3組のヤマダ先生がアキさんにどう対応していったらいいか悩んでいます。学年会でも話題にはしていますが、支援会議で取り上げてもらえないでしょうか」とコーディネーターに依頼があった。早速、アキさんの支援会議を、ヤマダ先生を交えて小委員会のメンバーで行うことになった。

## イ 支援会議の実際

### a ヤマダ先生の話

ヤマダ先生は2年3組を4月から担任している。ヤマダ先生は支援会議でアキさんの1学期の姿について記録を見ながら次のようなことを話した。

- ・5月、「1年生を迎える会」のとき、予定とは時間が変わったことを受け入れられず、興奮気味な様子で泣き、体育館へ移動しようとしなかった。
- ・6月、図書館へ移動するとき、普段と同じ並び順で移動できなかったことに対して怒った。図書館のはしごに座り、怒ったりすねたりしたような態度で過ごす。教室に戻っても給食に手をつけなかった。わがままだと思う。
- ・7月6日遅刻する。朝少し遅れて登校したことをクラスのサチさんに注意され、廊下に出る。しばらく階段の壁に寄りかかっている。担任が呼びにいくと、教室に一緒に入るが、しばらくしてベランダに出る。サチさんが迎えに行くと「サッチャンが私の足を踏んだ～」と言って泣き出す。1時間目中ずっと泣き続けた。
- ・休み時間に友だちと遊んでいて「〇〇ちゃんがわたしのうちわを壊した」「〇〇ちゃんがわたしをたたいた」と言い、怒って泣きながらうちわを壊した。
- ・7月20日、終業式の発表練習をした後「〇〇ちゃんが悪口を言った」と言い、体育館から出ていく。担任と児童数人で探すと、プールへ行く通路にいる。すねて出ていっても遠くへは行かない。友だちに自分を探してほしい、自分を気にかけてほしいという気持ちの現れか。
- ・7月24日昼休み。校庭で3年生に何か気に障ることを言ってしまい、たたかれる。泣きながら学校から出ていってしまう。途中、地域の方に話を聞いてもらって気持ちが落ち着いた様子で戻ってくる。放課後、母が教室へ来て「うちの子どもはいじめられているのではないか」と心配した様子であった。

### b メンバーから出された質問

ヤマダ先生はアキさんへの支援について悩んできたようで、一気にたくさんのことを話した。その後、支援会議のメンバーとヤマダ先生とで次のようなやり取りがあった。

- ・アキさんが「わがまま」なのはなぜだと思うか。  
→(ヤマダ先生) 自分の意思を押し通そうとするのは、彼女なりの願いが受け入れられないからだと思う。
- ・アキさんの家庭環境は？  
→(ヤマダ先生) 家には母がいるときといないときとがある。母は夜、働きに行っている。アキさんにはさびしさもあると思う。家では幼児のように泣きじゃくることがあるようだ。家では十分面倒をみてもらっていない。

## c メンバーによる意見交換

- ・私のクラスのシュンさん（アキさんの兄）を見ていても同じようなところがある。友だちをかんだりけったりすることがある。過呼吸になるぐらいのこともある。「だって〇〇君もやってた」と言う。そういう姿を見ていると、お母さんがシュンさんをもっと受け入れてくれるとよいのだがと感じてしまう。
- ・お母さんが学校で、シュンさんをたたくことがあり、シュンさんは泣いてしまった。
- ・家庭のことは学校ではどうしようもない部分もある。まずは教室でできることを考えるべきではないか。アキさんにとっては、こうしたいということを押し通そうとすることが生きる手段になっている。普段から自分の意思が通らないことが多くて、こういった行動をしているのではないか。解決するには、教師がよく話を聞くしかないように思う。そうすると気持ちがおさまってくるのではないか。
- ・5年生のコウジさんにもアキさんと同じようなことがある。しかし今まで育ってきた環境を考えると、わがままとばかりは言えないと思う。自分のことを友だちに分かってほしいと願っていろいろなことをする。でも、それは必ずしも周りの友だちに受け入れられることばかりではない。自分の方に向いてほしい、自分を分かってほしいという気持ちの現れであると理解して支援する必要があるように思う。
- ・予定の時間や並び順が変わったときに怒ったことからアキさんには発達障害があるのではないかとも思った。でも、先生方のお話を聞いていて、それよりもアキさんの気持ちの安定が一番だと思うようになった。アキさんはやる気になればがんばれるようなので、どうしたらやる気になるかを考えたい。

（校長先生）

子どもたちはみなそれぞれ何かを抱えて生活している。子どもを理解するとき、我々はその行為の裏にあるものを理解するようにしたい。その上で、その子が安心して学習できるのはどんな場なのか、家庭や学校で基本的欲求が満たされるためにはどうしたらよいかなどを考えていきたい。

## d 支援会議としての提案

メンバーによる以上のような意見交換を経て、コーディネーターは次のようにアキさんへの支援の方向をまとめて提案し、担任やメンバーと共通理解した。

- 学級担任はアキさんがわがまを言ったりすねたりするとき、まずそれを「自分を分かってほしい」という気持ちの現れであるととらえ、アキさんの話や気持ちをよく聞くようにする。そしてその上で、してはいけないことは「いけない」と伝えていくようにする。
- こういった学級担任による支援をしばらく継続しても、アキさんが落ち着いて学校生活を送るようにならない場合は、再度支援会議を行って支援の在り方を検討するとともに「個別の指導計画」を作成する。またその際、認知特性をとらえて、発達障害の可能性についても検討する。
- アキさんが意欲的に活動し、自己肯定感が高まるようにするにはどう支援したらよいか今後も委員会で折りにふれて話題にしていく。

## e 支援会議を振り返って

当初、ヤマダ先生はアキさんの困った「わがままな」姿をたくさん語り、胸の内にたまっていたものを吐き出しているようであった。そして、もう自分自身ではどうしてよいかわからないといった表情をしていた。

しかし、支援会議でメンバーからアキさんの姿について尋ねられたり支援についての意見を聞いたりするうちに、アキさんの「わがまま」と見える行動はアキさんの「自分を分かってほしい」という気持ちの現れであることに気づき始め、アキさんの思いにもっと共感していこうという気持ちをもつようになった。ヤマダ先生の暗かった表情も明るくなった。

この事例のように、教師が児童生徒の行為を困ったものとしてとらえているときには、支援の方向はなかなか見出せない。教師が見方を変えて、児童生徒の行為の背景にあるものを理解することが大切であり、これは支援会議の一つの大切な役割であると考えられる。教室で気になる児童生徒がいる場合、こういった支援会議での話し合いが後の適切な支援の方向へとつながることも多い。

### ③ 職員会議での報告や共通理解

校内委員会・支援会議などで実施した内容や検討したことについては、コーディネーターが毎回、職員会議で短時間でも報告することが肝要である。報告することによって特別支援教育について職員の理解が進むとともに、児童生徒について職員間での共通理解が深まることにつながる。校内委員会のメンバーばかりでなく、他の職員が当該児童生徒に対してどのような役割を担うかといった校内での協力体制をつくることにもつながっていく。

#### 職員会議での報告の形式例

##### 第〇回 校内委員会（支援会議）報告

特別支援教育コーディネーター ○〇

- 1 日時と会場 ○月○日（ ） 会議室
- 2 出席者
- 3 内 容
  - (1) ○年○組○○さんの支援（理解）にかかわる協議
    - ①現 状
    - ②質 疑
    - ③意見交換
  - (2) 委員会として考える支援の方向（結果）

## 2 外部の関係機関・専門家との連携

### (1) 地域の支援者を知ろう

#### ① まずは校内で検討し、地域へ

特別支援教育の担当者は、地域にどんな支援者がいるのか、可能な限りその現場に出向いて、担当者と親しくなることが大切である。保護者に同行して療育場面に参加したり、放課後や余暇活動の場面を実際に見たりすることを心がけたい。生涯にわたって、地域の中で暮らしていくことを考えると、地域の中に本人を支えるネットワークをいかに構築していくかが重要であり、そのつなぎ役を果たしていくために、担当者が地域に出ることの必要性について校内で理解を得るようにしたい。

地域の支援者と連携を進める場合、支援方法がわからないから教えて欲しいと依頼するのではなく、学校があくまでも主体になって、こんな方針で支援しているが、この部分についてはこの分野の専門家に相談したいというスタンスを大切にしたい。

また、あたりまえのことであるが、保護者との十分な相談を重ねた上で、連携を進めていきたい。障害を理解してもらおうとするあまり、逆に保護者を追い込んでしまうことのないよう、保護者に寄り添いながら、その子の生活を中心に共に考えていく姿勢を大切にしたい。

#### ② 特別支援学校の教育相談の活用

児童生徒の理解や指導方法に関する相談の窓口としては、特別支援学校の教育相談を利用するケースが多い。具体的には、①該当児童生徒について一緒に行動観察してもらったり心理検査などを実施してもらったりしながら支援のヒントを探る。②本人や保護者との相談にのる。③職員間の共通理解が図れるように校内委員会に加わったり職員研修を計画したりする。④支援会議や引き継ぎの話し合いに加わる。等、いろいろな場面で活用することが考えられる。学校としては、これまでに収集した情報や問題点を整理しどんな場面で何を相談したいのかを明確にしておきたい。

#### ③ 地域の関係機関との連携

各圏域には障害者総合支援センターがあり、さらに細かな支援センターが置かれている。そこでは、福祉の分野に関する相談ばかりではなく、療育に関する相談や就労に向けた相談にもものってもらうことができ、そこから関係する機関（事業所）を紹介してもらうケースも多い。相談の窓口を理解しておくために、地域の障害者総合支援センターに一度は足を運んで相談担当者と話をしておきたい。

しかし、地域の連携先すべてを理解していくことは困難であるため、地域のコーディネーター連絡会や担任者会などの場で情報交換を行い、連携マップを共有するなどして、次の担当者に引き継いでいくようにしたい。

#### ④ 地域との関係も大切に

支援を必要としている本人や家族への支援を考える場合、時には近所の方や親戚の方がキーパーソンとなる場合もある。公的な機関との連携だけでなく、本人や家族が暮らしている身近な地域社会をじっくりと見つめなおしてみることも重要である。また、習いごとの塾や学習塾、社会体育など、様々な生活場面にも支援の鍵があるかもしれない。本人の支援マップを描いて検討してみることも時に有効である。

## ⑤ 用語の使用には配慮を

特別支援教育に関する用語や医療・福祉の分野でよく使われる用語の中には、一般の方には馴染みの薄い言葉も多い。保護者や通常の学級の担任に説明する場合には、極力専門用語の使用は避け、わかりやすい表現で説明できるように準備をしたい。特に支援会議の時などは、専門家の話をかみくだいて説明しながら共通理解を図っていくようにしたい。

## ⑥ 個人情報の管理は厳重に

多くの方と連携をとっていく場合には、対象となる子の個人情報をどこまで伝えていくか、慎重に判断していきたい。支援会議等で話題にする内容は、本人または保護者の了解のもと、関係機関にも伝えていくものであることを再確認したい。また、病名や既往歴、家族関係や経済状況などプライバシーにかかわる情報も伝わることもあるので、関係者で守秘義務の確認と書類の取扱いに関しては繰り返し徹底していきたい。

パソコンのデータで作成した場合の保管などに関しても、十分に配慮したい。

# (2) 個別の教育支援計画に基づいた支援会議を開催しよう

## ① 個別の教育支援計画の活用

個別の教育支援計画は、原則として担任が特別支援教育コーディネーターの協力を得ながら作成していく。作成に当たっては校内委員会あるいは支援者が集まっての支援会議をもち、実態や課題を共通理解し、それぞれの支援の役割を明確にしていく必要がある。作成の手順としては、

- ア 実態を把握し、支援ニーズを明らかにする
- イ 支援目標と支援者の決め出しをする
- ウ 支援者が計画を共通理解し、役割分担をする

個別の教育支援計画は実践と評価を重ね、確実に引き継いでいくことが大切である。支援情報を伝えていくに当たっては、「プレ支援シート」「移行支援シート」等を活用していきたい。

## ② 支援会議の開催

ここで言う支援会議は、児童生徒の支援ニーズに対して、保護者や担任等の開催要請に基づき、保護者や学校関係者、地域の支援者（外部の関係機関）等が一堂に会し、支援の状況や現状を共通認識し、更に新たに支援目標を設定して、それを達成するための具体的な支援内容を探る会議である。校内では、特別支援教育コーディネーターが中心になって、支援会議に出席するメンバーを決め、日程を連絡調整していく。その際、特別支援学校や地域の支援センターのアドバイスを積極的に活用するとともに、事前に関係者で話し合いの内容を確認しておくようにしたい。また、会議を行う場合には、時間の設定に配慮し、長時間の話し合いは避け、次回までの一定の方向性を確認して、1回の話し合いだけで結論を急がないようにしたい。

---

個別の教育支援計画の作成と活用 → 共通・連携編 P.53

関係機関との連携 → 共通・連携編 P.65

支援会議提案シート、支援会議の記録シート → 共通・連携編 P.71, 72

支援をつなぐ連携を目指して → 共通・連携編 P.79

### （３）実践事例 「外部の関係機関・専門家との連携と継続した支援」

小学校特別支援学級（知的障害）に在籍するケンジさんは、保健所の検診の後、相談機関を紹介され、就学前より作業療法および言語療法の療育に通っていた。小学校入学後、保護者とともに、各療育場面を参観させてもらい、ケンジさんの現在の課題が明確になり、学校・家庭・療育場面のそれぞれで、共通理解のもとに支援を行っていくことの重要性が認識された。その後、療育コーディネーターも加わり、学校で支援会議を開催した。その話し合いをもとに個別の教育支援計画を作成し、支援を継続していった。

#### ① まずは療育場面の参観から

就学前の資料により、障害の状況や本人の課題は確認できていたが、実際に学校生活をスタートしてみると様々な課題が出てきていた。小学校入学に伴い転居したこともあり、生活環境が大きく変わってしまったため、新たなこだわりが出てきており、また、音に対する過敏さもあり、集団での学習活動に参加することが難しい場面が見られた。

小学校入学後すぐに行われた家庭訪問では、まずこれまでの成長の過程と保護者の願いを十分に聞き取った。その話の内容から、関係者との共通理解の必要性を感じ、本人が通っている医療機関に同行させてもらうことにした。療育場面では、学校生活では見られないケンジさんの姿が見られ、参観後、担当職員との懇談の席で必要に応じて担当職員が関係機関に出向くことを確認した。

#### ② 支援会議開催まで

療育場面を参観した後、保護者とともに、関係機関の方と共通理解のもとで、今後の支援の方向を探っていきたいことを確認した。そこで、地域の障害者支援センターの療育コーディネーターと連絡を取り、支援会議開催のスケジュールを調整し、日時を決定した。校内においては、管理職に支援会議の内容と必要性を説明し、特別支援学級担任（コーディネーターを兼任）と担任で課題を整理し、資料を用意した。その資料を事前に療育コーディネーターに送付し、およその話し合いの内容を確認した。

#### ＜第１回支援会議（１年生７月）＞

当日は児童が活動している５時間目の時間に関係の方々に来校してもらい、授業の様子を参観してもらったのち支援会議を行った。

参加者：保護者、療育コーディネーター、作業療法（OT）担当者、学級担任、特別支援学級担任（特別支援教育コーディネーター兼務）

用意した資料：実態把握のための資料、保護者の希望リスト

会議の概要：学校のコーディネーターが進行。自己紹介と各場面（学校、療育、家庭）における本児の現在の課題について話した。

家庭では、食べ物に対するこだわりが強くなり、少しでも苦手なものは食べないこと、大きな音を心配し外出を嫌がっていることが報告された。学校では、音に対するこだわりが大きく、通常の学級の集団での活動が難しいため、特別支援学級での支援を多くしていることを報告した。

### ③ 個別の教育支援計画の作成

家庭、学校、療育場面で取り組むべき課題が明確になってきたことに加え、新たに、医療機関との連携の必要性、さらに地域の資源を活用して余暇活動の幅を広げていく必要性が明らかになってきた。そこで、下記のような個別の教育支援計画を特別支援学級担任が作成し、保護者と確認した。また、懇談ではこの書面を修正していった。

平成 年度 個別の教育支援計画シート

初回記入者名：

初回記入日：平成 年 月 日

|                                                                                                                          |                                              |                                                                                                                                                        |        |                                                      |                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|------------------------------------------------------|------------------------|
| 立 園・学校 年 組                                                                                                               |                                              | 校長名                                                                                                                                                    |        | 担任名                                                  |                        |
| 氏 名<br><small>ふりがな</small>                                                                                               |                                              | (男・女)                                                                                                                                                  |        | 生年月日：平成 年 月 日                                        |                        |
| 保護者名                                                                                                                     |                                              | 電 話<br>緊急連絡先                                                                                                                                           |        |                                                      |                        |
| 住所： 〒                                                                                                                    |                                              |                                                                                                                                                        |        |                                                      |                        |
| 将来に向けての願い（◎）、現在の生活の願い（・）                                                                                                 |                                              |                                                                                                                                                        |        |                                                      |                        |
| 本人の願い                                                                                                                    | ◎得意な活動を思い切り楽しみたい<br>・安心できる場所で、親しい人と勉強や運動をしたい |                                                                                                                                                        | 保護者の願い | ◎職業自立ができる力をつけたい<br>・基礎的な学力をつけたい<br>・コミュニケーションの力をつけたい |                        |
| 支援目標（長期：◎、短期：・）                                                                                                          |                                              |                                                                                                                                                        |        |                                                      |                        |
| ◎自分の意志を身振りや言葉で示し、親しい人と進んでかわり、興味関心の幅を広げることができる<br>・親しい教師や特別支援学級の友だちと言葉で簡単なやりとりができる<br>・基礎的な教科学習や制作活動に集中して取り組むことができる時間を延ばす |                                              |                                                                                                                                                        |        |                                                      |                        |
| 主な支援内容                                                                                                                   |                                              |                                                                                                                                                        |        |                                                      | 支援者                    |
| 学校                                                                                                                       | 学級                                           | ・ 1対1の学習場面を設定し、カートでのやりとりを中心に、言葉で伝え合う経験を増やす。コミュニケーションの心地よさが感じられる場面を大切にする。<br>・ 本人が教務を持ちやすい目で見えてわかる予定表や教材を工夫する。<br>・ 担当との信頼関係を大切に、遊びの中で新しい刺激に慣れるようにしていく。 |        |                                                      | 担任<br>支援員              |
|                                                                                                                          | 校内                                           | ・ 通常の学級での大きな集団の中で見られる音に対する過敏さに配慮し、音楽や体育など学習内容によっては無理に誘わない。親しい友だちとのペアを大切にする。<br>・ 苦手な刺激が多い時には保健室や職員室にも避難できるようにしておく。                                     |        |                                                      | 学級担任<br>養護教諭<br>教頭     |
| 家庭                                                                                                                       |                                              | ・ 食べ物に対するこだわりが多いが、少しでも食べられそうな食べ物の可能性を探る。<br>・ 好きな本やアニメなどを探る。宿題は連携をとりながら、量を調整する。                                                                        |        |                                                      | 母、父                    |
| 地域                                                                                                                       |                                              | ・ 余暇の時間の過ごし方の幅が広がるように探っていく。簡単な意思表示ができる。                                                                                                                |        |                                                      | 祖父母                    |
| 関係機関<br>医療・福祉<br>特別支援学校                                                                                                  |                                              | ・ 運動経験の幅を広げていく。新しい素材に触れることに慣れる。<br>・ 過敏さやこだわりに対する対応策を探る。<br>・ 余暇活動に利用できる地域資源を探していく。                                                                    |        |                                                      | 医療機関OT<br>医師<br>支援センター |
| 支援会議の記録                                                                                                                  |                                              |                                                                                                                                                        |        |                                                      |                        |
| 《日時》<br>年 月 日                                                                                                            |                                              | 《参加者》                                                                                                                                                  |        | 《協議内容・引き継ぎ事項等》<br><br>次回支援会議予定 年 月                   |                        |
| 支援内容の評価                                                                                                                  |                                              |                                                                                                                                                        |        |                                                      |                        |

以上の内容を確認いたしました。平成 年 月 日 保護者名

#### ④ 医療との連携にあたって

ケンジさんは音に対する過敏さが見られ、家庭でも学校でも本人が困ってしまう場面が多いことから、医療機関にも相談をすることになった。そこで、保護者の了解のもと、学校での状況をまとめた資料を作成し、予め主治医に送付しておき、特別支援学級担任は保護者とともに、通院に同行した。

そこで、薬の服用を提案され、学校での様子を細かく観察していくことになった。服用を開始して1時間ほどで眠気が強く出るようになり、授業中でも畳のコーナーで1時間近く眠ってしまう状況が出てきた。そこで、保護者を通じて医師と相談し、薬の量を調整しながら様子を見たが、眠気は変わらず、いったん薬の服用は中止することとなった。そこで、保護者・作業療法士（OT）とも相談して、新たな対応策を検討した。

学校では、当面、本人がどうしても嫌がる校外での活動には無理に誘わずに、嫌な音がした時の対処法を具体的に教えていくこととした。

- ・教室内に落ち着くコーナーを設置して、担任と一緒にそこに避難することを繰り返し、少しずつ、自分で伝えて一人でそこに行くことができるようにする。
- ・運動会の練習など大きな音がする場面での参加について周囲の理解を求める。
- ・本人が参加する競技ではピストル（雷管）は使用しない。
- ・好きな買い物学習を通して、校外での活動に少しずつ慣れる。

また、家庭では、耳栓やイヤマフの使用を試してもらうことにした。

#### ⑤ 支援の幅を広げるために

その後、担当者が一堂に会して行う支援会議は、2年生から4年生まで、年1回設定するようにした。それ以外は、個々に連絡を取りながら支援をすすめてきたが、学年が進むに従って新たな課題が出てきた。

##### ア 保護者の相談先の確保

保護者はいろいろな情報を書籍やインターネット等を通じて得て、自分なりに学んでいたが、この地域の状況や進路等に関して、不安を抱えていた。そこで、母親が気軽に相談できる場所が必要と考え、地域の障害者支援センターを通じて親の会を紹介してもらった。会にかかわるようになり、話ができることによって、不安の一部は解消されていった。

##### イ 豊かな余暇利用に向けて

学校から帰ると近くの祖父母宅で過ごすことが多かった本児であるが、社会性を伸ばしたり、本児が好きな活動に参加したりするためにも、福祉サービス事業所が提供する余暇活動プログラムにも参加してみようと考えた。参加にあたっては、学校での状況を説明し、想定されるこだわりの場面等を伝え、保護者とともに、どのようなプログラムであれば本人が参加できそうか相談し、福祉事業所の方をお願いしていった。

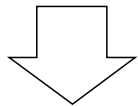
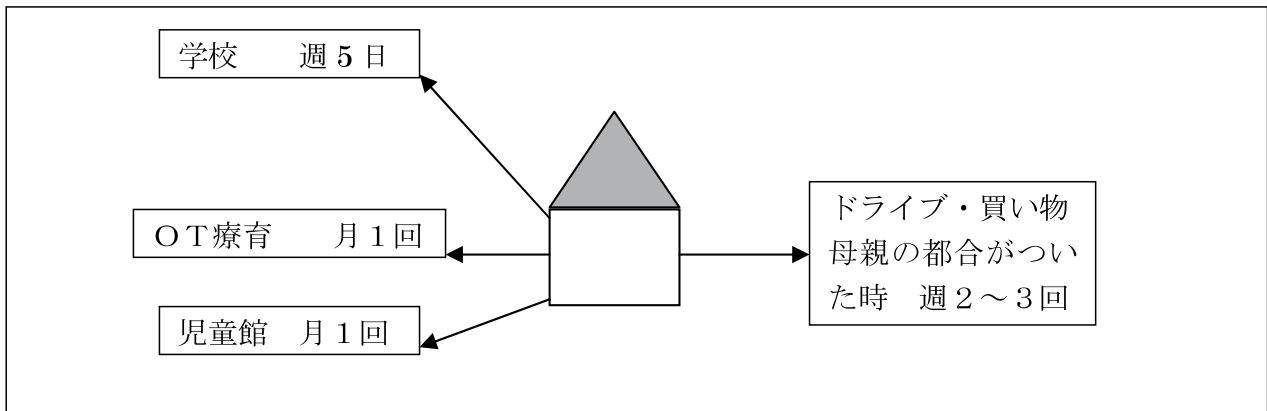
##### ウ 新たな活動への参加

その後も本児の生活を広げていくために、療育キャンプへの参加、福祉サービスを利用した公共交通機関を利用する学習などにも取り組んでみた。様々な活動を広げていくにあたって、福祉分野では地域の支援センターが、健康面や日々の生活上の課題に関しては、医療機関の作業療法士（OT）が相談先となり、必要に応じて学校も情報を伝えていくことで支援先が増え、生活する場が広がっていった。

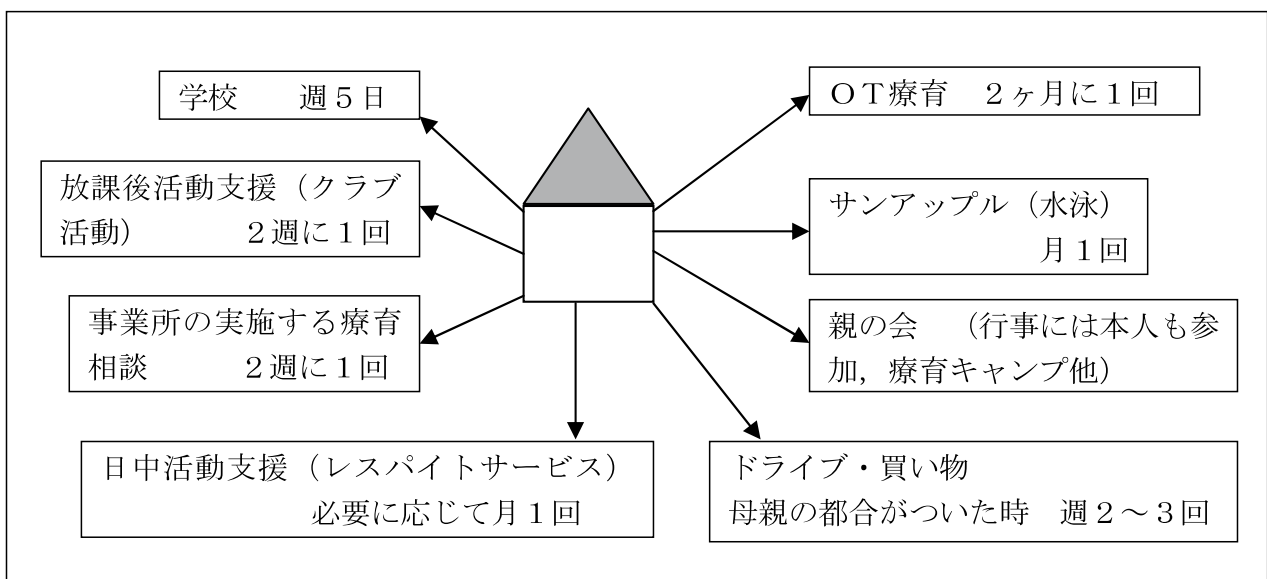
この間のケンジさんの生活地図の変化をみると、本人をとりまくネットワークが広がってきている。本人・保護者を支えるネットワークを探る時には、支援マップを描いてみることも有効である。

### 〈支援マップの変化〉

#### 2年生の1学期



#### 5年生の3学期



### ⑥ 支援会議の開催と個別の教育支援計画の修正

5年生になり、進路に向けた相談が必要と考え、なるべく多くの方が加わってもらえる支援会議を開催するために、地域の障害者支援センターの方と日程を調整していった。

今回は進路に向けての課題を中心に話し合うことにして、日常生活場面での課題について細かく扱うことは避けた。その結果、コミュニケーションの取り方、通学、余暇時間の過ごし方、などに課題があることが明確になり、それらに取り組みながら、進路に関しては見学等を通じて情報収集していくことになった。

参加者：保護者、療育コーディネーター、福祉事務所担当者、作業療法（OT）担当者、福祉サービス提供事業所担当者、学級担任、特別支援学級担任

用意した資料：個別の教育支援計画、生活地図

会議の概要：学校のコーディネーターが進行。個別の教育支援計画をもとに、これまでの支援の経過の報告。進路については、今後、まず保護者が見学を実施。コミュニケーションの幅が広がるよう、書いて伝えること、メールの活用、シンボルの活用などを試してみてもどうか。通学途中でのパニックが心配。余暇時間に好きな物を買に行く経験をして、可能性を探っていきたい。

## ⑦ サポートブックの作成

様々な福祉サービスを利用できるようになると、本児にかかわる関係者が増えてきたが、担当者が替わるたびに、本人の状況について細かく説明する必要が出てきた。また、療育キャンプに参加する時には、担当する大学生が事前に学校を訪問してくれることもあったが、そこでも、本人の特性をわかりやすく伝えていく必要性が出てきた。そのため、保護者とともに、本人の好きなことや、苦手なこと、どんな支援を好むか、パニックになってしまった場合の対処法などをわかりやすく、コンパクトにまとめたサポートブックを作成していくことになった。

### サポートブックの例

- ・ 大きな音は苦手です  
ヘリコプターや飛行機などの音が特に苦手です  
突然の音が苦手です  
→音がしそうな場面では必ず予告してください。
- ・ 耳栓やイヤマフはあまり好きではありません
- ・ 耳を抑えて座り込み大きな声を出してしまうかもしれません  
→パニックになってしまったら室内の安心できる場所で少し一人にしてください  
(好きな本があると安心です)



## ⑧ 情報の引き継ぎへ

進路選択にあたっては、5年生の後半から相談をスタートし、想定される進学先への見学を勧めた。6年生の1学期には、保護者が特別支援学校を参観し、次いで地域の中学校の特別支援学級も参観し、担当者と懇談の機会をもった。2学期にかけて相談を重ねながら、地域の中学校特別支援学級への進学を希望するようになっていった。3学期には3回の体験学習を実施して、少しずつ新しい学校の雰囲気になれるように配慮した。

また、ケンジさんには、新しい場面や雰囲気に抵抗を示す様子が見られるので、事前に「プレ支援シートB」を中学校に送付し理解を図った。そして、春休み中に中学校を訪問して、実際に入学式が行われる会場を見学させていただき、入学式の流れを担当職員から聞いておいた。このような手だてを講じたことで、当日は落ち着いて入学式を迎えることができた。

新しい学校生活に慣れてきた5～6月頃に、旧担任も交えた支援会議を実施すると有効な場合も多い。ケンジさんも新しい環境の中で、予想していなかった困難さに直面する場合も多かった。幸い、継続的に支援にかかわっている医療機関の作業療法士（OT）や支援センターの担当職員と随時保護者が相談し、中学校の担当職員も小学校時代の担当職員と会う機会が多かったため、その都度情報交換をしながら、新しい生活がスタートしている。

# プレ支援シート B (小→中, 中→高 用)

記入者所属・氏名：

記入日：平成 年 月 日

|                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 〔 〕 学校 ⇒ 〔 〕 学校                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ふりがな                                                                                                            | 現在かかっている医療機関 医院・病院 先生                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 氏 名                                                                                                             | <div>障害の状況 (障害名)</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 本人の特徴 (性格, 行動, 得意なこと など)                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 新しい環境に慣れるまで時間がかかるが、親しい人とは明るく会話をすることができる。大きな音は苦手だが、漢字練習やパソコンは得意で集中して取り組むことができる。行事には通常の学級集団の一員として落ち着いて参加することができた。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 本人の願い                                                                                                           | 保護者の願い                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 勉強をがんばりたい。(漢字・英語)                                                                                               | 社会に出て役立つ基礎的な力と楽しい思い出を大切に育てたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <div>これまでの取り組み</div> <div>今後必要と思われる支援 (記入項目にチェック)</div>                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 学習の支援                                                                                                           | <div> <input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 計算 <input type="checkbox"/> 推論する<br/> <input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> その他 ( ) </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級では、課題が明確になると一定の時間は集中して課題に取り組むことができる。これだけやったら終わりという目標が分かると集中できる。</li> <li>・生活単元学習では、新しい素材に慣れるまでに時間がかかった。</li> <li>・体育・音楽・学級活動は内容を検討して通常の学級に参加した。</li> </ul> </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科担任制で、多くの職員がかかわることになるので、慣れるまで時間がかかると思われる。導入にはプリントでの学習をするなど、本人が取り組みやすい課題で少しずつ関係を作っていきたい。</li> <li>・視覚情報を活用した教材の準備をしたい。</li> </ul> </div>                                                           |
| 行動の支援                                                                                                           | <div> <input type="checkbox"/> 声かけ (指示) <input type="checkbox"/> 集中 <input type="checkbox"/> こだわり <input type="checkbox"/> 忘れ物<br/> <input type="checkbox"/> 当番活動 <input type="checkbox"/> 勘定の制御 <input type="checkbox"/> 教室の移動<br/> <input type="checkbox"/> その他 ( ) </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚情報の処理が優位であり、また、予定がわかり、繰り返しが多い活動であると安心できるので、毎朝、必ず予定を確認し、特に苦手な活動がある場合にはその対処法も併せて伝えるようにした。</li> <li>・大きな音に対しては配慮が必要である。予告し、別の場所への避難も認めた。</li> <li>・食事でも過敏さがあるので、無理をせず、食べられるもので楽しい時間にすることを大切にした。</li> </ul> </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音に対する過敏さは、全職員で共通理解しておきたい。</li> <li>・本人がわかりやすい方法で1日の予定や1時間の活動の予定を伝えていきたい。</li> <li>・どうしても苦手なことが出てきた場合の避難場所も確保しておきたい。</li> </ul> </div> |
| 対人関係の支援                                                                                                         | <div> <input type="checkbox"/> 人への関心 <input type="checkbox"/> 相手の気持ちの理解 <input type="checkbox"/> 言葉でのやりとり<br/> <input type="checkbox"/> グループ活動 <input type="checkbox"/> その他 ( ) </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは、担当職員との関係づくりを大切にし、教師が仲立ちになりながら、友だちとの会話を広げていった。親しい友だちとは、一問一答形式の会話ができる。</li> <li>・不安な状況では大きな声を出して逃げてしまうことがあるので、周囲の理解を図るよう、保護者とも相談して本人の特性を通常の学級にて話した。</li> </ul> </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な状況でのパニック様の行動については、対処法を職員で共通理解しておくとともに、保護者とも相談して必要に応じて周囲の生徒にも伝えていく。</li> </ul> </div>                                                                                                                                                                              |